



ドッヂビー全国大会2025

報告書

【大会の概要】

日 時 2025（令和7）年12月13日（土曜日）～12月14日（日曜日）

場 所 駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場

〒154-0013 世田谷区駒沢公園 1-1 TEL03-3421-6199

主 催 一般社団法人日本ドッヂビー協会（D B J A）

後 援 東京都

協 賛 文化シヤッター株式会社

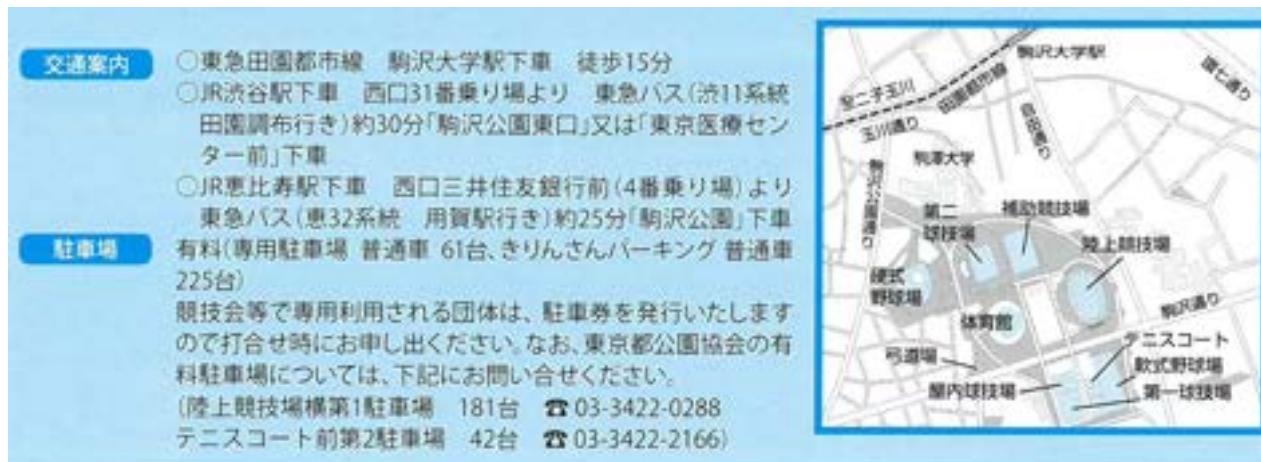
株式会社ラングスジャパン

株式会社クラブジュニア

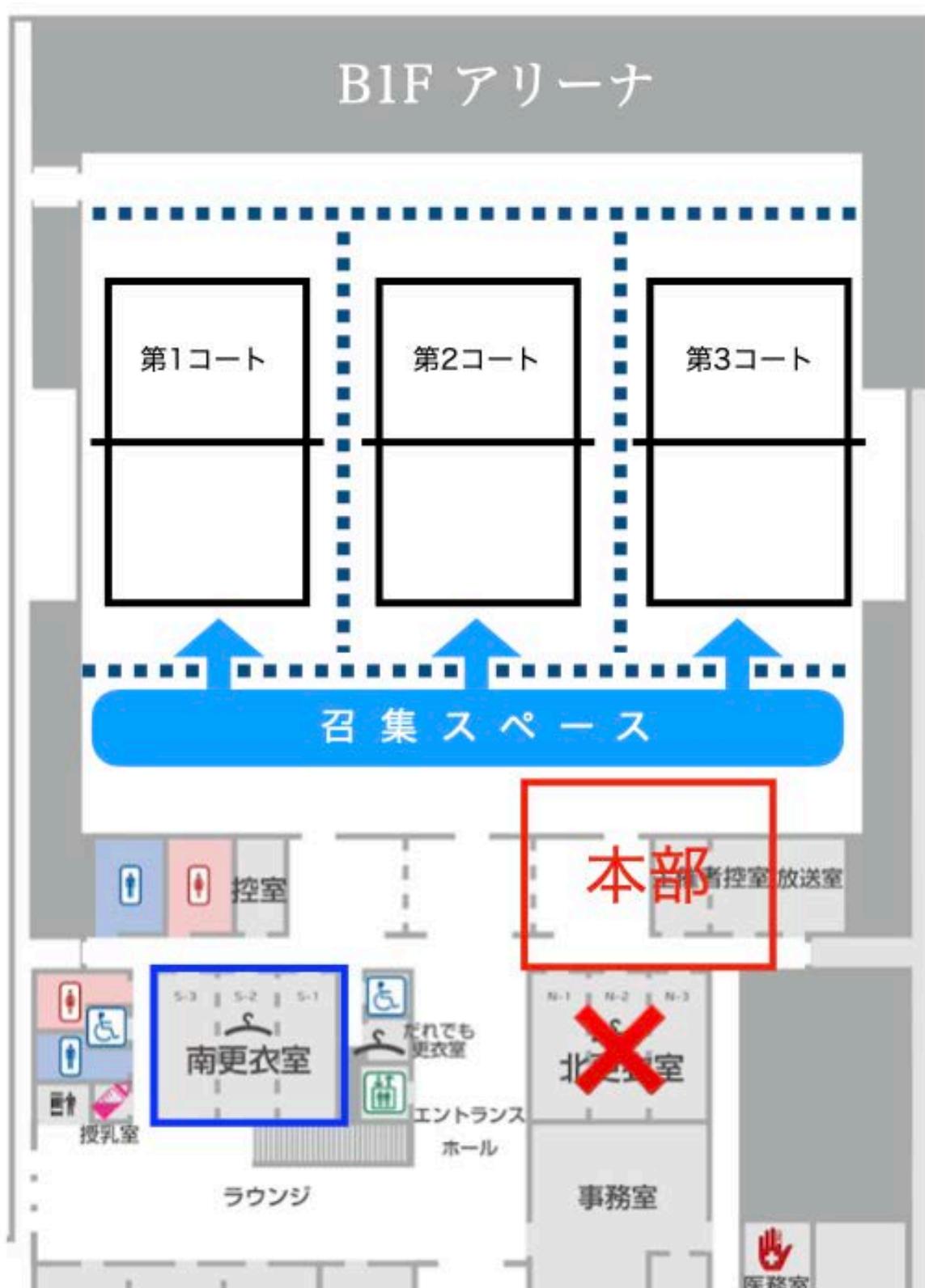
株式会社ミカサ

協 力 一般社団法人日本フライングディスク協会（J F D A）

駒沢オリンピック公園総合運動場<全体図>

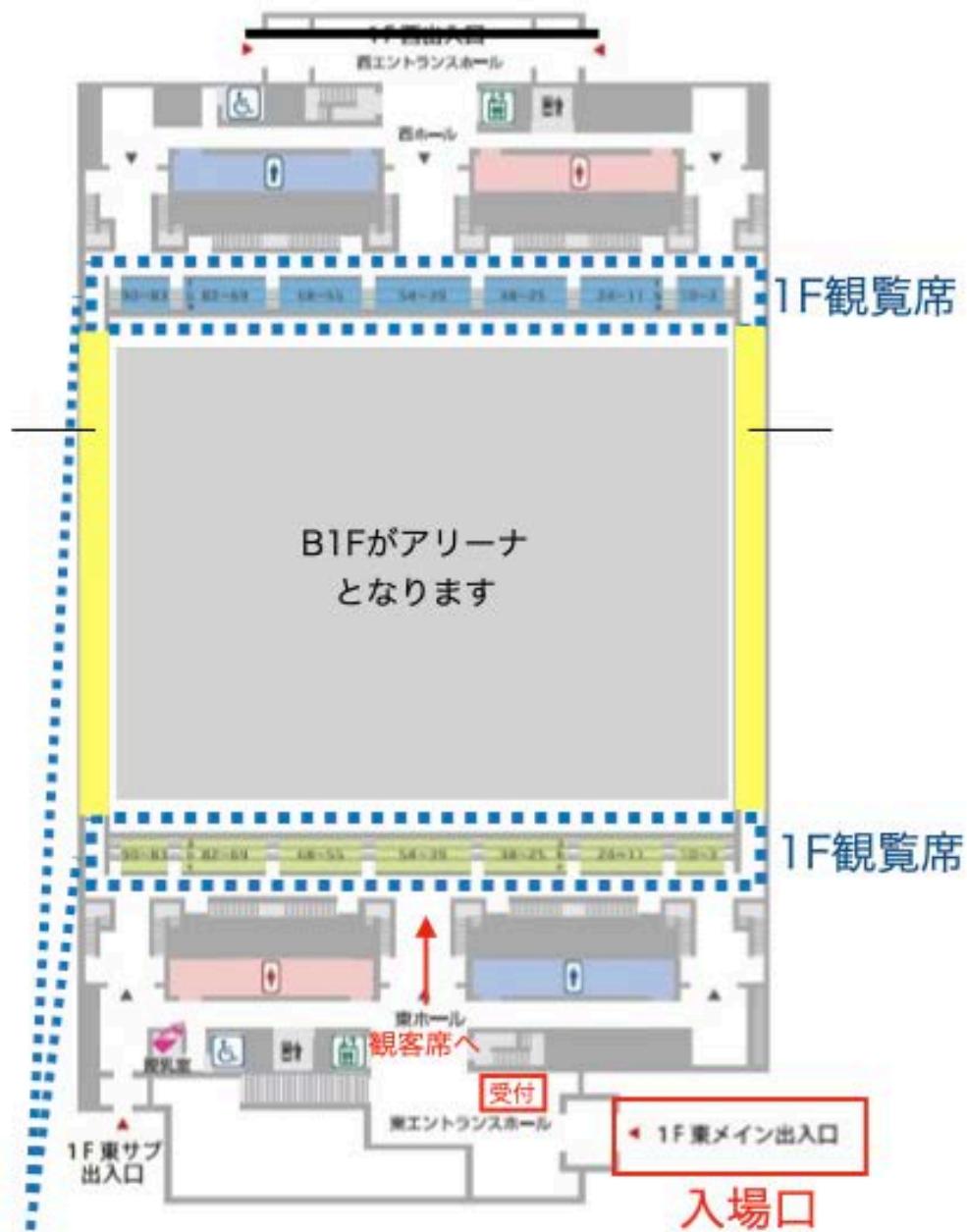


B1F アリーナ図



屋内球技場のアリーナ面をフルに使用した、ディスクドッヂ3コートでの展開とした

駒沢オリンピック公園 屋内球技場 【1F観客席案内】



1F 観覧席（観覧席の前3列）は東西ともに荷物を置くなどの占有はせず対戦中チーム関係者が試合ごとに交替で観戦することが出来るスペースとした。

【来場者数】

12月13日（土） 579名

選手競技者 319名

同伴指導者/応援者 200名（約）

スタッフ/来賓等関係者 55名



12月14日（日） 629名

選手競技者 319名

同伴指導者/応援者 250名（約）

スタッフ/来賓等関係者 60名

【対戦組み合わせと競技方法】

◇ディスクドッヂ部門 25チーム

予選リーグ戦⇒4から5チームで構成するA～Fまでのリーグ戦

順位決定トーナメント⇒

各予選リーグ上位2チームで構成されるチャンピオンシップトーナメントと、

各リーグ3位から5位チームで構成されるスマイルトーナメント

試合形式 予選 各2分30秒の前後半

トーナメント 各3分30秒の前後半

1チーム10名（元外野は3名配置）

使用ディスク 公式ミカサモデル 【270】 Official RipStop を使用

勝敗決定 予選リーグ戦の同点は引き分けとしては勝点制で順位を決定

勝ち→3pt 引き分け→1pt 負け→0pt

※予選リーグ戦における順位決定の優先順

- 1) 勝点の大きいチーム
- 2) 得失点（総得点-総失点）の大きいチーム
- 3) 総得点数の多いチーム
- 4) 総失点数の少ないチーム
- 5) 直接対決での勝利チーム
- 6) ディスクフリップで決着

・各トーナメントで同点の場合、ディスクフリップで決着

今大会のディスクドッヂ部門の初めての取り組みの一つとして、「ドッヂビーマインド」を以下のように宣言し、年齢や性別などを問わず誰もが一緒に楽しむための想いや心構えを選手、関係者、審判団で共有するための指針を作った。今大会内では、このドッヂビーマインドをよりコートで体現していただいたチームへ「ドッヂビーマインドアワード」を贈ることを決め、各試合終了後に審判団が各項目について評価し、大会全体を通した総合的な点数によって受賞チームを決めることにした。

ドッヂビーマインドについて

DBJAは、ディスクドッヂに関わるすべての皆様と共に、スポーツを通じて互いを尊重し合い、誰もが安心して楽しめる場を創り上げていくことを目指しています。この想いを「**“ドッヂビーマインド”**」と名付け、ここに宣言いたします。

今大会では、ディスクドッヂをオープン1部門で開催いたします。年齢や性別に関わらず、すべてのプレーヤーが共にコートに立ち、スポーツの魅力を分かち合う——その実現のために、私たちは共に力を合わせていきます。

この「ドッヂビーマインド」には、以下のような心構えが含まれています：

- 試合は、選手・審判・関係者が協力して築くものであり、すべての人が敬意を持って関わること。
- ルールを理解し、フェアプレーの精神に則って、気持ちよくゲームをつくりあげること。
- 内野選手は、ディスクが当たった自覚がある場合、笛の有無に関係なく自発的に申告して外野に出るという誠実な姿勢を持つこと。
- 相手選手に対して挑発的な態度や発言をせず、クリーンなプレーを心がけること。
- 時間稼ぎなどの意図的な行為を避け、常に正々堂々としたプレーを大切にすること。
- ベンチや観客席においても、判定への不満を表すのではなく、選手を応援し、ポジティブな雰囲気と一緒に作っていくこと。

この「ドッヂビーマインド」を胸に、私たちはプレーヤー、審判、運営関係者、そして観客の皆様と共に、健全で心地よい大会を創り上げてまいります。

◇ドッヂディスタンス部門 319名

●小学生部門

●レディース部門 ※急遽の開催 詳細は<運営所感>参照

●オープン部門

予選通過 各部門4名 (タイ記録の選手がいる場合は繰り上げ) が決勝進出

※オープン部門のみ運営側ミスにより5名が決勝へ進出した

予選通過ライン及び予選通過決定方法

・小学生部門の予選通過ライン **1 8 m**

※通過ラインを超えたスローのみを計測

・オープン部門の予選通過ライン **2 3 m**

※通過ラインを超えたスローのみを計測

決勝方式 ①1ラウンド目は予選の下位の選手から2投を投げる

⇒2投の内、遠くへ飛んだ記録のスローを計測する

②2ラウンド目は、1ラウンド目の下位の選手から上位の選手の順番
にスローをして順位を決める

ルール DBJA公式ルールで実施。

・防球ネットを超えたものは無効

・予選のみ壁や防球ネットに当たったものは、当たった地点を接地点とする

使用ディスク 公式ミカサモデル Official RipStop を使用。

・サイズは選手の選択に任されるが、ディスクは公平を期すため

大会側が準備した



ドッヂビー全国大会2025 ディスクドッヂ部門予選リーグ結果



Aリーグ

	ドリームカップタイアーズ	上小スター	TEA	Battery	順位
		○	○	●	
ドリームカップタイアーズ		16 - 5	14 - 9	5 - 15	2
上小スター	●		●	●	
	5 - 16		8 - 14	0 - 18	4
TEA	●	○		●	
	9 - 14	14 - 8		0 - 18	3
Battery	○	○	○		
	15 - 5	18 - 0	18 - 0		1

Bリーグ

	ウエストジャックス	Polars	上小スター	東大寺ペーパーズ	M.D.C.ワイル	順位
ウエストジャックス		○	○	○	△	1
	12 - 10	16 - 3	13 - 8	9 - 9		
Polars	●		○	○	△	
	10 - 12	18 - 1	18 - 3	13 - 13		2
上小スター	●	●		●	●	
	3 - 16	1 - 18		4 - 16	4 - 13	5
東大寺ペーパーズ	●	●	○		○	
	8 - 13	3 - 18	16 - 4		14 - 5	3
M.D.C.ワイル	△	△	○	●		
	9 - 9	13 - 13	13 - 4	5 - 14		4

Cリーグ

	香港のKSC	Thailand Flying Team	ウエストジャックス	Hong Kong Youth	順位
		●	○	●	
香港のKSC		5 - 14	10 - 6	0 - 12	3
Thailand Flying Team	○		○	○	
	14 - 5	16 - 4	14 - 7		1
ウエストジャックス	●	●		△	
	6 - 10	4 - 16		9 - 9	4
Hong Kong Youth	○	●	△		
	12 - 0	7 - 14	9 - 9		2

Dリーグ

	KKDC	ドリームカップタイアーズ(KKDC)	東大寺ペーパーズ	Hong Kong Women	順位
		○	○	○	
KKDC		15 - 9	13 - 9	13 - 11	1
ドリームカップタイアーズ(KKDC)	●		●	●	
	9 - 15	6 - 14	5 - 17		4
東大寺ペーパーズ	●	○		●	
	9 - 13	14 - 6		9 - 16	3
Hong Kong Women	●	○	○		
	11 - 13	17 - 5	16 - 9		2

Eリーグ

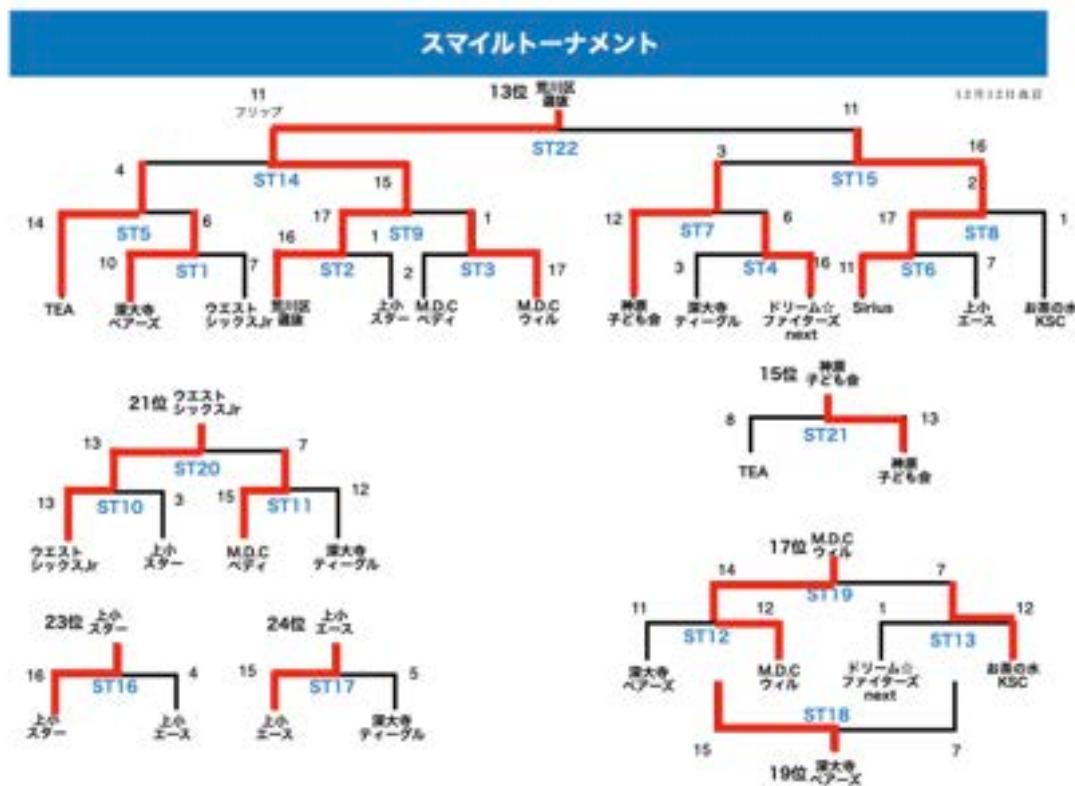
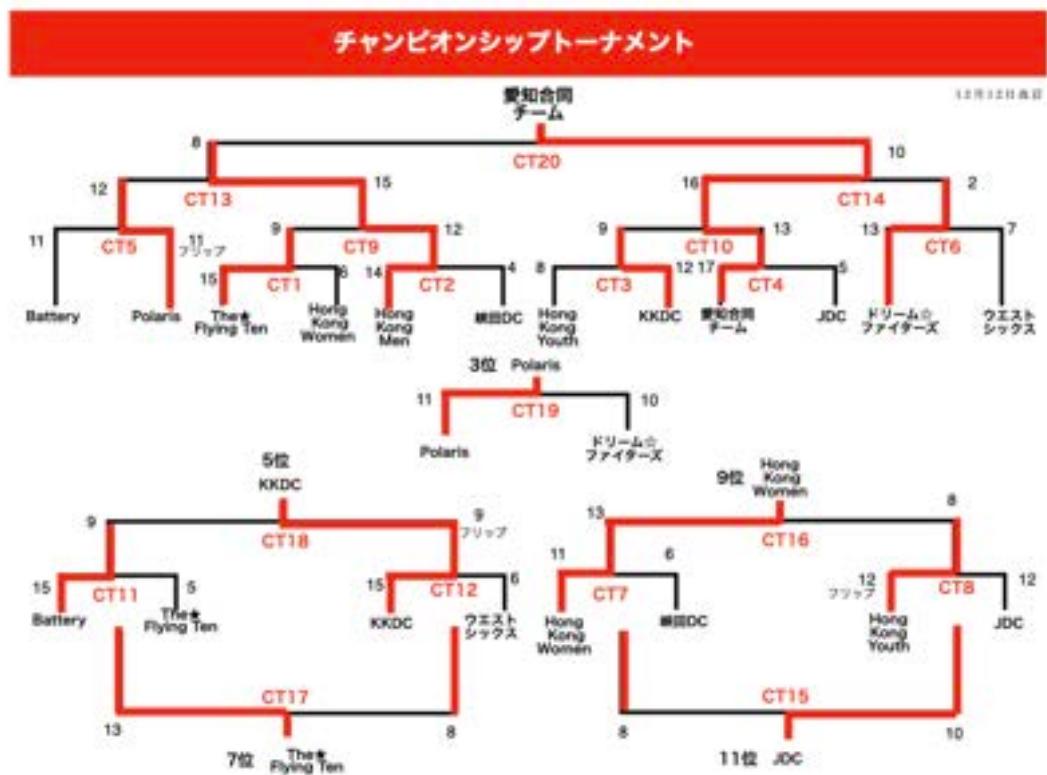
	Hong Kong Men	東川田選抜チーム	愛知合田チーム	東大寺ティーチャーズ	順位
		○	○	○	
Hong Kong Men		17 - 8	13 - 10	17 - 2	1
東川田選抜チーム	●		●	○	
	8 - 17	11 - 13	18 - 2		3
愛知合田チーム	●	○		○	
	10 - 13	13 - 11		18 - 0	2
東大寺ティーチャーズ	●	●	●		
	2 - 17	2 - 18	0 - 18		4

Fリーグ

	JOC	M.D.C.ペディ	KKDC	Stress	順位
		○	○	△	
JOC		16 - 4	13 - 7	12 - 12	1
M.D.C.ペディ	●		●	●	
	4 - 16	2 - 18	2 - 17		4
KKDC	●	○		○	
	7 - 13	18 - 2		12 - 11	2
Stress	△	○	●		
	12 - 12	17 - 2	11 - 12		3

ドッヂビー全国大会2025

ディスクドッヂ部門各順位決定トーナメント結果



ドッヂビー全国大会2025 ドッヂディスタンス部門予選
決勝進出者



☆印は日本新記録

小学生部門

予選1位	山崎 優太朗 (ウエストシックス)	30.14m☆
予選2位	平田 圭叶 (ウエストシックス)	28.49m
予選3位	中坊 陽月 (ウエストシックス)	28.33m
予選4位	中村 華 (ウエストシックス)	26.84m

レディース部門

予選1位	輿石 真緒 (ウエストシックスJr)	30.49m☆
予選2位	陳亦彬 (Hong Kong Women)	30.32m☆
予選3位	神谷 チエミ (KKDC)	29.82m☆
予選4位	余俐敏 (Hong Kong Women)	29.76m

オープン部門

予選1位	中村 大蔵 (ウエストシックス)	34.32m☆
予選2位	関本 志龍 (Battery)	34.30m☆
予選3位	鈴木 雄大 (KKDC)	33.81m☆
予選4位	吉井 風真 (The★Flying Ten)	33.68m
予選5位	林家謙 (Hong Kong Men)	33.13m☆

※運営側の集計ミスによりオープン部門のみ5名が決勝進出

【最終成績】

<ディスクドッヂ部門>

 ドッヂビー全国大会2025 ディスクドッヂ部門 最終順位	
優 勝	愛知合同チーム
準 優 勝	Hong Kong Men
第 3 位	Polaris
第 4 位	ドリーム☆ファイターズ
第 5 位	KKDC
第 6 位	Battery
第 7 位	The★Flying Ten
第 8 位	ウエストシックス
第 9 位	Hong Kong Women
第 10 位	Hong Kong Youth
第 11 位	JDC
第 12 位	峠田DC
第 13 位	荒川区選抜チーム
第 14 位	Sirius
第 15 位	神原子ども会
第 16 位	TEA
第 17 位	M.D.C ウィル
第 18 位	お茶の水KSC
第 19 位	深大寺ベアーズ
第 20 位	ドリーム☆ファイターズnext
第 21 位	ウエストシックスJr
第 22 位	M.D.Cペディ
第 23 位	上小スター
第 24 位	上小エース
第 25 位	深大寺ティーグル



＜ディスクドッヂ部門優勝 愛知合同チーム＞



＜ディスクドッヂ部門準優勝 Hong Kong Men＞



＜ディスクドッヂ部門第3位 Polaris＞

< ドッヂディスタンス部門 >



ドッヂビー全国大会2025
ドッヂディスタンス部門 最終順位

オーブン部門

優勝	吉井 風真 The★Flying Ten	38.36m 日本新記録
第2位	鈴木 雄大 KKDC	36.42m 日本新記録
第3位	関本 志龍 Battery	35.19m 日本新記録
第4位	中村 大蔵 ウエストシックス	32.42m
第5位	林家謙 Hong Kong Men	30.61m

レディース部門

優勝	陳亦彬 Hong Kong Women	35.41m 日本新記録
第2位	輿石 真緒 ウエストシックスJr.	31.39m 日本新記録
第3位	余俐敏 Hong Kong Women	29.15m
第4位	神谷 チエミ KKDC	25.78m

小学生部門

優勝	平田 圭叶 ウエストシックス	30.96m 日本新記録
第2位	山崎 優太朗 ウエストシックス	30.52m 日本新記録
第3位	中村 華 ウエストシックス	29.04m
第4位	中坊 陽月 ウエストシックス	28.33m



＜ドッヂディスタンス日本記録更新者＞

※大会前の日本記録を基準に、記録を更新した選手を表示しています

ドッヂビー全国大会2025 ドッヂディスタンス部門 日本記録一覧		
カテゴリ	氏名	記録
アダルト男子	吉井 風真 The★Flying Ten	38.36m
高校3年生男子	鈴木 雄大 KKDC	36.42m
高校3年生女子	陳亦彬 Hong Kong Women	35.41m
アダルト男子	関本 志龍 Battery	35.19m
高校1年生男子	中村 大蔵 ウエストシックス	34.32m
高校3年生男子	林家謙 Hong Kong Men	33.13m
高校2年生男子	Liu Guanzhao Polaris	32.61m
アダルト女子	輿石 真緒 ウエストシックスJr.	31.39m
シニア男子	瀧本 将之 Battery	31.28m
シニア男子	小島 誉史 Battery	31.05m
小学校6年生男子	平田 圭叶 ウエストシックス	30.96m
小学校6年生男子	山崎 倫太朗 ウエストシックス	30.52m
アダルト女子	神谷 チエミ KKDC	29.82m
シニア グランドマスター男子	安田 雅彦 M.D.C ウィル	26.51m
小学校2年生男子	進藤 大雅 ウエストシックス	24.54m
シニア女子	東條 菜月 The★Flying Ten	24.12m





<ドッヂディスタンス 小学生部門優勝 平田 圭叶>



<ドッヂディスタンス レディース部門優勝 陳亦彬>



<ドッヂディスタンス オープン部門優勝 吉井 風真>



文化シヤッター様提供 優勝メダル&ドッヂビーマインドアワードメダル



準優勝&第3位盾



ラングス様提供 大会オリジナルドッヂビー

MIKASA様提供 ドッヂビー270リップストップ



クラブジュニア様提供 ドッヂビー270カモフラージュ/グレイテストバッグ

< 参 加 賞 >

文化シヤッター様 ご提供

- ・マフラータオル

日本ドッヂビー協会 提供

- ・大会オリジナルナップサック



< 大 会 写 真 ・ 動 画 >

今大会では協会が設定した撮影専門ス

タッフによるプレー中の写真撮影をおこない後日、大会参加者に向けてグーグルドライブを使用して期間を限定した写真の閲覧およびダウンロードがリンクを知ってる方が無料でおこなえるサービスを実施した。

また、初めての試みとしてYoutubeを使用した12月14日大会2日目の一部試合動画のライブ配信を行った。以下より、アーカイブとして視聴できる。

<https://youtube.com/live/npLoxnIDMjM>

< 運 営 所 感 >

日本ドッヂビー協会として2日間の連日開催という初めての試み「ドッヂビー全国大会2025」を駒沢オリンピック公園屋内球技場にて行いました。

募集段階では、どの程度のチームがこの企画に賛同いただきお申し込みをいただけるのかと大変不安に思っておりましたが、いざエントリーが始まると26チームからのお申し込みをいただきました。さらに非常に嬉しいことには、関東チームはもちろん、強豪がひしめく愛知県から3チーム、遠方山口県からも1チーム、そして海外香港から5チームが集結していただけこととなり、嬉しい驚きとなりました。

■ 12月13日（土）大会1日目

初日は快晴の朝を迎えたものの、今年一番の冷え込みとも言えるほど気温が下がり白い息を吐きながら会場入りする選手や関係者の姿が印象的でした。12月に入ってからの冷え込みもあってか、世間的にはインフルエンザの流行が連日報じられており大会が近づくにつれ選手・スタッフ双方からの相次ぐ体調不良の連絡が入り非常に不安を感じるスタートとなってしまいました。中でも、チーム内にインフルエンザが蔓延してしまい1チームが直前に辞退となり、参加チームが26チームから25チームへと変更されました。リーグ戦のバランスが悪くなつたこともあり、協会内で検討した結果、前日に組み合わせ、スケジュールを大幅変更をする決断をしました。この急な変更もあり、大会当日に参加チームより、対戦表の不備の指摘をいただくなど大変ご迷惑をおかけいたしました。

開会式では、遠方山口県よりご参加いただいた「神原子ども会」の佐々木 想真さん、永田 千夏さん、和田 向日葵さんの3名に選手宣誓を行なっていただきました。まるで私たち日本ドッヂビー協会の今大会のコンセプトや思いをそのまま体現していただいたような素晴らしい宣誓をしていただき、競技開始前に大いに盛り上がるセレモニーとなりました。神原子ども会様にお許しをいただき宣誓文をここに掲載させていただきます。

選手代表宣誓

私たちは、山口県宇都市から飛行機に乗って、
大きくて立派な富士山を見ながら東京にきました。

今日から2日間、富士山のように落ち着いて、堂々と、相手を大切にし、みんなで試合をつくることを誓います。

ドッヂビーは、フェアプレーがあつてこそ楽しいスポーツです。

ディスクが当たったら、自分から正直に外へ出ます。

挑発もしないし、時間をかせぐこともしません。

宇都市は“彫刻のまち”として有名ですが、

動かないのは彫刻だけ。私たちは誠実に、気持ちよく動きます。

審判の方にも、相手チームにも、しっかり敬意を払います。

スポーツの魅力は、勝ち負けだけではありません。

みんなで試合をつくる、あたたかさにもあります。

だから私たちは、コートでも、ベンチでも、観客席でも、判定に文句を言うのではなく、ポジティブな声で、明るい空気を広げ、クリーンな大会にすることをここに誓います。

ドッヂビーの輪が、世界中に広がります
ように。

令和7年12月13日

選手代表 神原子ども会 ささきそう
ま・ながたちか・わだひまわり



競技が始まる前までは、オープン1部門としたディスクドッヂ部門がどのように展開されるのか運営サイドとして心配していた部分がありましたが、いざ試合が始まってみると好ゲームの連続となり、体格差・実力差があるチーム同士の試合でも相手に敬意を持って試合が進み大きな怪我やアクシデントなくスケジュールが進んでいったことに非常に安心いたしました。競技面では、今回ディスクドッヂ予選の試合時間を2分30秒前後半という従来よりも短い時間での試合としました。合計5分となる試合時間でハーフタイムのベンチ交代もなしとしてスケジュールのスムーズな進行を目指しましたが、最初のうちはなかなかスタッフ間の段取りが上手くいかず、やや押し気味にスケジュールが進行してしまいました。その中にあっても、選手の皆さんにご協力いただき徐々に遅れを取り戻しながら、ディスクドッヂ予選が終了する頃にはほぼスケジュール通りに終えられました。

ドッヂディスタンス予選では、部門により予選通過ラインを設定し、そのラインを超えた選手のスローを計測していく方式を取りました。この数年のドッヂディスタンスの飛距離を鑑みて予選通過のラインを設定したつもりでおりましたが、両部門ともに多くの選手が軽々と予選通過ラインを超えるスローを連発。運営サイドの想定飛距離の甘さを認識するとともに選手の皆さんの技術向上を感じる事となりました。ドッヂディスタンス予選では、なんと14名の選手が日本記録を更新するスローを見せていただいたほか、小学生部門と女性選手の中で3選手が30m超えのスロー、そしてオープン部門では32mの記録を出しても予選落ちとなるなど非常にハイレベルな展開となり、翌日の決勝へ期待が高まりました。



■ 12月14日（日）大会2日目

大会2日目は、NHKでスポーツ実況を担当されている鳥海貴樹さんに会場アナウンスをご担当いただきました。鳥海さん自身もフライングディスクスポーツ「アルティメット」のご経験があり、その縁もあって今回ドッヂビー大会を初めてご覧いただくこととなりました。アナウンスをご担当いただいたディスクドッヂ部門決勝、ドッヂディスタンス決勝では目まぐるしく変わる試合展開を会場に的確にお伝えいただき熱戦にさらに華を添えていただきました。

●ディスクドッヂ部門

初日の結果により、チャンピオンシップトーナメントとスマイルトーナメントの2つのトーナメントに分かれ、また試合時間も3分30秒前後半の従来の試合時間となりました。負ければ上位に入るチャンスが失われるトーナメント戦は、明らかに昨日よりも緊張感が高まり熱気と興奮が会場全体を包みました。

「全国大会」と呼ぶにふさわしいハイレベルな試合の連続となったこのトーナメントのベスト4に残ったのは、香港からきた2チーム「Polaris」と「Hong Kong Men」、強豪ひしめく愛知エリアから「愛知合同チーム」、そして小学生中心のチームながら東京の「ドリーム☆ファイターズ」が勝ち残りました。

準決勝1試合目の「Polaris - Hong Kong Men」は、序盤互角な展開ながらも勝負所でのHong Kong Menの鋭いシュートが連続して決まり決勝へ進出。日本勢の対決となったもう一つの準決勝「愛知合同チーム - ドリーム☆ファイターズ」は、正確かつ圧倒的なシュート力をもつ愛知合同チームが粘るドリーム☆ファイターズを振り切り決勝戦へと駒を進めました。

香港のチーム対愛知県のチームとなった決勝戦は、初日のリーグ戦初戦で戦った顔合わせ。リーグ戦では、Hong Kong Menが勝利を収めていましたが、13-10という僅か3人の差での勝利とあって、どちらが勝ってもおかしくない試合と予想されます。前半、愛知合同チームは確実に相手の内野を当てていき有利に試合を進めますが、徐々にペースを取り戻したHong Kong Menが流れるようなパスワークから一気に盛り返し、前半ラスト数秒のところでダブルヒットを決め8-2の6人差で前半を終えます。3分半しか残されていない後半で6人差は決定的な差かと思われましたが、愛知合同チームは全く諦めていませんでした。後半、愛知合同チームは焦ることなくしっかりとパスを回しながらHong Kong Menの内野を減らしていきます。さらに、チーム全体でフォ



口一するディフェンス能力を発揮し確実に攻撃権を確保していきます。そして残り10秒となったところでいよいよ、Hong Kong Menの内野が残り1人となり、最後の最後まで粘ったものの素早いパス回しから最後のヒットが生まれ、あと数秒のところでまさかのゼロゲーム。ここまで初日から無敗を誇ったHong Kong Menを大逆転した愛知合同チームがチャンピオンに輝きました。それぞれのシュート力もさることながら、パスの正確性やチーム全体のディフェンスの意識の高さなど素晴らしいプレーを見せていただき王者と呼ばれるに相応しい戦いぶりを見せてくれました。また、異国での戦いにも動じずレベルの高さを最後まで証明し続け、さらにそこに気合がみなぎる精神力をを見せ続けたHong Kong Menにも会場から惜しみない拍手が送られていました。



●ドッヂディスタンス

まず、ドッヂディスタンス決勝を迎えるにあたり、前日の予選後に運営側にて協議がお行われ、全体的に非常に良い記録が連発していること、特に女性選手の記録が素晴らしいまま小学生とオープン部門のみで行うは勿体無いという結論がなされ、急遽ではあります「レディース部門」の決勝も行うことになりました。突然の変更にも関わらず、快く決勝出場を快諾いただいた皆さんありがとうございました。

ディスタンス各部門の決勝はまさに「驚き」の連続となりました。小学生部門決勝では、まず決勝へ進出した4名全員がウエストシックスからという驚きがありました。予選通過した4名の選手はいずれも予選通過ラインの18mを軽々と超えるスローで決勝進出を決め、予選トップの山崎選手に至っては、30.14mの小学校6年生の日本新記録での決勝進出です。決勝では、平田圭叶選手が1ラウンド目に30.96mの小学校6年生男子の日本新記録を再び更新してトップに立ちます。予選トップの山崎 倫太朗選手も2ラウンド目に30.52mという好記録を出したもののわずかに及ばず平田選手が逃げ切りの優勝となりました。



続いてレディース部門は、日本から2選手、香港から2選手の対決となりました。注目は31.85mという女性の日本記録保持者でもある興石 真緒選手。1ラウンド目で31.39mというもう少しで自身の日本記録に迫るスローを見せます。しかし、それをさらに上回ったのがHong Kong Womenの陳亦彬（チン・イ・ペン）選手。1ラウンド目でこれまでの日本記録を上回る32.09mの新記録を樹立し会場は大盛り上がりとなりました。しかし、驚きはこれだけで留まらず、優勝を決めた陳選手の2ラウンド目の最終スローは35.41m。男性のこれまでの日本最高記録34.95mを40cm以上も上回る国内最高記録を叩き出し見事な優勝を決めました。



女性選手の日本最高記録更新という興奮が冷めやらない中で行われたオープン部門決勝。第1ラウンドの2人目に予選4位通過で登場したThe★Flying Ten 吉井 風真選手が10分前に更新された日本記録をいきなり破りました。レーザー距離計に示された記録は36.94mで、史上初めて36m台のビッグスロー。さらに、予選2位で決勝へやってきたBattery 関本 志龍選手は、なんとフォアハンドで従来の日本記録を上回る35.19mの大記録で第1ラウンドの2位となります。さらなる記録更新の期待が高まる第2ラウンド、今度は第1ラウンド4位のKKDC 鈴木 雄大選手が逆転優勝を狙うビッグスローで、記録は

36.42m。惜しくも吉井選手の記録に届かないものの二人目の36m台スローで2位にジャンプアップしました。吉井選手はこのまま最後まで第1ラウンドの記録が抜かれることなく、最後の1投前に優勝を決めました。しかし、この最後の1投で衝撃が待っていました。吉井選手から放たれた230サイズのディスクはぐんぐんと伸びて逆サイドの壁に到達しようかというところで着地。読み上げられた記録は、なんと38.36m。驚愕の38m台に会場は大盛り上がり。従来の日本記録を3m以上更新するとんでもない記録で吉井 風真選手がオープン部門の優勝を決めました。



全ての部門で素晴らしい好記録が飛び出した背景には、選手の技術向上がまず挙げられます。さらに今回目立ったのは、従来日本記録を出していた270サイズのディスクではなく、230を使用する選手が増えたことです。直径が小さく抵抗は少なくなるので飛びやすくなるポテンシャルは持っているものの、その分重量がないため力の加減や、角度、スナップがしっかり効いてないと逆に距離が出ません。また、ディスタンス種目でファアハンドスローを使用する選手が増えたことも注目すべき点でした。フォアハンドスローは、角度調整が難しく少し間違えれば飛距離が伸びなくなりがちですが、今回出場の選手たちは非常に上手に軌道を操っておりました。ディスタンスとえばバックハンドという概

念を壊し、新しい一面を見せていただきました。多くの選手が普段のトレーニングの中でより良いテクニックを磨き今回の日本記録連発へと繋げていただいたと感じました。ドッヂディスタンスが新しい時代に入ったことを認識し、さらに今後記録が伸びていくことが期待されます。

●ドッヂビーマインドアワード



今大会の初めての試みとして導入したドッヂビーマインドアワードは、各試合後に担当レフェリーが5つの項目を5段階の数値でそれぞれのチームを評価し、最終的に各試合の点数の合計を試合数で割って平均点を出しました。「審判団が評価」というと一見偉そうに聞こえてしまうかもしれません、狙いとしては審判団のジャッジへ対する意識も個々の価値観によるものではなく、ルールにプラスしてある程度統一した基準に基づいてレフェリングを行うことがブレが少なくなり選手に対してもフェアなものになるのではないか、という想定に基づいたものでした。5つの項目とは、以下になります。

- ・ルールの理解
- ・フェアプレイ
- ・相手への敬意
- ・ジャッジへの敬意
- ・チーム総合

これらの基準で全ての試合を集計した結果、ドッヂビーマインドアワードは「神原子ども会」が受賞されました。神原子ども会の平均は17.29点で、全体の平均点が14.80点でしたので試合に対して素晴らしい意識で臨まれていたことがよくわかります。

また2位には「ドリーム☆ファイターズnext」16.00点、3位に「ドリーム☆ファイターズ」15.86点でランクインしています。兄弟チームであるこの2チームが上位に入ったことは、選手の試合に対する意識の高さ、また普段から指導者の皆さまが試合に対する姿勢や態度を共有し指導されているからこそその結果であると感じられます。

この取り組みはまだまだ始まったばかりで改善が必要な部分もありますが、選手・関係者・審判団など全ての人々が意識していくことで、真剣勝負でありながらも皆が楽しくプレーできることへと繋がっていくと考えておりますので引き続きご理解ご協力いただければと考えております。

■ 最後に

改めまして今大会の開催にあたって、多くの企業さまから多大なるご協賛、ご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。スポンサーの皆さんのご支援がなければここまでの大規模の大会の開催に漕ぎ着けることはできませんでした。本当にありがとうございました。

また選手、関係者の皆さんには未熟な運営面で大変なご不便とご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。それでも快く急な変更にもご対応いただき、なんとか予定していたスケジュールを終えることができ、多くの反省を抱えつつも開催して良かったと今は感じております。2日間という日を跨ぐ開催にあたって、どうイベントが展開していくのか手探りではありましたが、ドッヂビー1枚あれば多くの人が笑顔で交流し熱中し歓声が上がる、そんな場面を目撃し改めてドッヂビーの魅力をスタッフ一同再確認いたしました。また今後も今回の反省点を改善し皆さんのが参加したいと思っていただける大会、イベントを作りまいりますので、また会場でお会いできることを楽しみにしております。ご参加、ご来場誠にありがとうございました。

トーナメントディレクター 三浦 奏

